

有志舎の新刊です。2021年6月下旬刊行

戦後沖縄と復興の「異音」

—米軍占領下 復興を求めた人々の生存と希望—

謝花直美 著

四六判・ハードカバー・280ページ 本体価格 2,600円

復興の中の「異音」に耳を傾ける—

米軍占領下の沖縄復興は本土の復興とは全く違うものだった。

過酷な沖縄戦を生き延びた人々が、復興の中でも多くのものを失い、それでもなお生きつないでいった姿を、生存と生活の場から描き出す。

(目次)

- 序章 戦後沖縄 占領下の生活・生存／復興の中の「異音」
- 第1章 ミシンと復興—女性たちの「生活圏」と共助—
- 第2章 移動と引揚げがつくった「金武湾」という地—米軍占領下、沖縄の生存と労働—
- 第3章 「復興」の中の離散—垣花と軍港で働く人々—
- 第4章 「復興」に奪われた真和志村
- 第5章 「オフ・リミッツ」と「米琉親善」による境界編成
- 第6章 「アカ」と「第一次琉大事件」
- 終章 「気持ちまでは取られない」

〈著者紹介〉謝花直美 (じゃはな なおみ) : 1962年生まれ、沖縄タイムス記者・沖縄大学地域研究所特別研究員

～版元から～ 沖縄の人々は沖縄戦から米軍占領下の戦後にかけて、戦場での彷徨・避難、収容所への移動から帰還、さらに海外からの引揚げなど、生活を破壊され移動に次ぐ移動を強いられました。本書は、これまでの歴史叙述が取りこぼしていた人々の生活の場(生活圏)に注目し、米軍占領下の復興というものがいかなるものであり、ある復興が別の復興を妨げてしまうという「復興の異音」に耳を傾けながら、戦後沖縄の原風景を生身の人間の姿に即して描き出します。巧妙に占領への協力が作り出され、窒息しそうな社会の中でも、希望の兆しを人々は生活の場からいかにして創り出していったのかを明らかにします。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南4-19-2 クラブハウスビル1階 (有)有志舎 電話:03-5929-7350

番線印	ご注文	発行：有志舎	分野
	冊	戦後沖縄と復興の「異音」 —米軍占領下 復興を求めた人々の生存と希望— 謝花直美 著	日本史(現代) 沖縄戦後史
	ご担当	四六判・ハードカバー、280ページ 本体価格 2,600円	弊社はいつでも返品を受け付けていますが、逆送のご心配がある場合は、「永滝 了解」として返品下さい。
	様	新刊 ISBN 978-4-908672-49-1 C1021	

ご注文は (株)JRC(人文・社会科学書流通センター)へ

返品条件付注文です。

FAX: 03-3294-2177

電話: 03-5283-2230